

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 深町小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

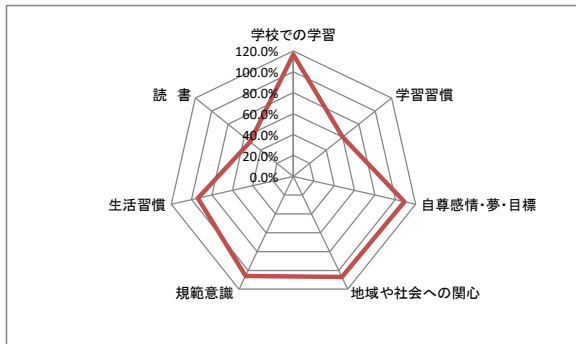
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を上回っていた。「話すこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均正答率より上回っていた。しかし、「書くこと」「読むこと」の2領域については課題が残されている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題、目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む問題、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題	
	努力が必要な問題	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめを書く問題、話し手の意を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていた。領域「量と測定」については、全国平均正答率とほぼ同程度であった。課題のある領域は、「数と計算」「図形」「数量関係」であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題、示された除法の意味を理解している問題	
	努力が必要な問題	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる問題、加法と除法の混合した整数と小数の計算をすることができる問題、示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	自尊感情はやや高い傾向にある。各クラスで行っているよいところ見付けの成果と考える。また、将来の夢や目標をもっている児童は多い傾向にある。昨年度から特化して取り組んでいるキャリア教育の成果と考える。
○	学校のきまりなど規範意識にかかわる内容については、ほとんどの児童がしっかりと考えることができている。特別の教科道徳、特別活動などでの指導の成果と考える。
○	読書については、家庭でほとんど行っていない結果が分かった。児童への声掛け等が必要であると考え。国語科学習の時間をはじめ、読書の楽しさをさらに伝えていくようにする。
○	学校での学習は意欲的に取り組んでいるが、家庭学習の取り組みはやや課題があると考える。家庭学習の取り組みについては、学校全体の一定の方向性を示す必要があると考える。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○担任は、朝自習の時間等に深町っ子ホールにある学習プリント、WEB問題、アシストシート等を活用しながら、課題解決に努める。
○分かる授業の5つのポイントを生かした授業づくりを確実に行う。特に「振り返り(分かったこと、できるようになったことなどを視点)」をした後に「まとめ」を行い、児童一人一人に思考力・判断力・表現力を育成する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習については、「1学期末に全職員で話し合い作成した「家庭学習メニュー表」(低学年、中学年、高学年の3タイプ)を全家庭に配布し、それを活用して家庭学習の習慣を身に付けさせる。また校長は学校通信、PTA理事会等で保護者に家庭学習の大切さについて伝える。
○就寝時刻、起床時刻等については、校長は学校通信、PTA理事会等で保護者に発信、担任は、朝の会、帰りの会などの場で早寝・早起き・朝ご飯の大切さを指導する。